

2025年度活動方針

竹取物語の会は2002年に発足以来、会員の皆様及び関与先様のご理解、ご支援のお陰さまで週2回の活動を長期に渡り継続中で今年度7月には23周年を迎えます。4月1日時点での会員数は57名で今年度も特に安全作業に留意しつつ楽しくやりがいのある組織を目指すと共に、新入会員の増強に注力する所存です。

保全作業面では、穂谷財産区竹林(野外活動センター内)の継続整備を初め、基地竹林、西部竹林、穂谷財産区ヒノキ人工林、基地周辺雑木林など継続実施の予定です。

1) 活動の基本的な方向

会員意見の尊重と共に自主性を重視し、マンパワーに偏らず組織的対応の充実をチャレンジします。野外活動センター、穂谷区、枚方市農業振興課、山田池公園管理事務所等地域との連携を進めて、可能な範囲で効果的な里山保全活動及び自然環境啓発活動を推進します。

①安全対策の更なる充実

従来より基地倉庫に救急箱を2セット常備しています。安全担当委員による備品メンテナンスの徹底と共に、作業地が基地より離れる場合は必ず救急箱の携帯を徹底してください。

基地竹林初め常時保全作業実施場所については、イノシシによる穴掘りの埋戻しや、転倒しやすい場所での整備等従来以上にリスク管理して、会員一同がより安全・安心できる環境づくりに注力いたします。

従来より実施の道具・器具点検整備デーの充実とともに、特に技術を必要とするチェンソー及び製材機使用会員はチェンソー・製材活動実施報告書の名簿に記入してください。また、作業時でのヒアラーハットはその都度朝礼などで発表いただき、多くの会員に情報、知識共有を図り、安全作業に望みたい。

②フリーデーの更なる充実

2016年度スタートのクラフトデー(48回実施)は2020年8月よりフリーデーに改称し、従来通り竹取伝統技術の伝承と共に創作技術の開発も加え、2022年よりは出来る限り毎月1回日曜日に開催しています。

先輩会員が保有する各分野での技術継承が文化となり、楽しさも併せて引き継げる事を望んでいます。クラフトデーよりフリーデーと繋ぎ2024年度3月現在91回継続中で会員各位のお陰さまで近年様々な創作技術、改善技術のチャレンジが見受けられ、頼もしいかぎりです。フリーデーで培われた技術が、竹取の様々な行事で来場者に活用いただき、何よりも楽しめる事を願っております。

③新入会員増強の為の更なる改善

2018年5月新入会員増強を目指して(里山活動1日体験)をスタート。2回目からは参加者の便宜を考慮して、当会の作業日に随時実施を継続しています。2024年度3月更なる新入会員の獲得を目指して、野外活動センターのご支援により、枚方市広報に(里山保全活動&野遊び体験)2回目を開催、結果4名の会員増強に繋がりました。2024年度は里山活動1日体験参加者は夏場の猛暑、冬場の寒さ等影響してか減少傾向にあります。職業の定年年齢が年々高齢化する現在、如何にして自然環境保全を引き継いでいただける仲間を見つけるか、持続可能な組織づくりには、重要な課題です。ホームページの改善及び活動紹介の工夫、地域との更なる連携など出来る範囲でチャレンジしたいと思います。

2)グループ制による活動体制により、グループ毎の役割分担を行って、連携を図りながら進める。

グループ	役割分担
事務局・学習 G	補助金・助成金・寄付金確保のための事務作業、関係機関への報告・登記変更事項等の事務作業、理事会の運営(議案及び翌月の予定表の作成、議事録の作成、結果の会員への情報提供)、毎月の予定の野外活動センターへの連絡・外部情報受け入れ窓口・紹介・折衝・会員への情報提供・里山保全講座運営・申請実績報告書の作成提出・機関紙「竹取新聞発行」・HP更新管理・会員数の維持、拡大
保全活動 G	年間計画作成・日常作業提案・安全管理・用具管理・製材機管理と活用促進・果樹園管理・茶畑管理・作業フィールド管理・里山体験活動などの受入、対応・穂谷地区の里山保全活動・竹林、人工林、活動地の巡検・会員の技術共有
クラフト G	フリーデー作業提案・作品創作、試作・材料収集、在庫管理・クラフト体験依頼などの受入、対応・会員の技術共有
資源活用 G	フリーデー作業提案(資源活用Gとして)・竹炭、竹酢液生産・竹紙漉き指導・茶摘み体験(釜炒り製法)指導・山田池、奥山田川など水質保全活動(水質検査、活動成果の検証、一層効果的な方針検討、情報発信)・間伐材用途拡大検討

3)地域とのネットワークの充実

穂谷竹林整備委員会、穂谷森づくり委員会、里山保全活動団体意見交換会、ネイチャーボランティアネットワーク会議、ひらかた環境ネットワーク会議、ひらかた市民活動支援センター会議、山田池公園管理事務所及び枚方宿まちづくり協議会等と連携し、地域との強調を図ります。

4)健全運営を継続する

①財政基盤の維持の為創意工夫

引続き、イオン環境財団殿への助成金申請を行います。昨年度に引き続き、枚方市里山保全活動補助金の申請を行います。あいおいニッセイ同和損害保険(株)殿、日本電音(株)殿からの寄付金を継続的に得られるよう、できる限り活動計画を推進します。他方、間伐材を活用して行事などで物販を促進し、少しずつでも継続的に自助努力により財政基盤に寄与します。

②会員への保険加入の継続

全会員対象の「ボランティア活動保険」、チェンソー・製材作業者(登録者)対象の「スポーツ安全保険」への加入は継続します。

③透明感のある会運営の継続

総会の決議に基づく会運営の促進の為、毎月1回理事会を開催し、議事録を作成、理事会の会議結果や翌月活動予定のメールなどと共に、毎月の竹取新聞の発行、ホームページの適宜更新などにより会員との情報共有を促進します。安全管理、資機材管理のルール、火気を使った場合の完全な消火確認、活動日に早退する場合の規則の尊重などお互いに守るべき規約は遵守しながら活動をお願いいたします。

④会運営において、改善点などございましたら、毎月の理事会で検討いたします。役員にご連絡お願いいたします。